

インタビュー：常磐自動車道の整備を実感



宮城県知事

むらい よしひろ
村井 嘉浩氏

常磐自動車道(以下、常磐道)は、東日本大震災を契機に加速度的に整備が進められ、東日本大震災により未曾有の被害を受けた本県の災害派遣・救援物資輸送の支援、建設資材の輸送を迅速化し、復旧・復興を強く後押ししたことにより、生活再建や地域経済の復活などに大きく貢献してきました。

常磐道は、首都圏を起点に太平洋沿岸の各都市を經由し仙台市に至る国土の骨格を形成する極めて重要な高速幹線道路であり、東北自動車道と合わせ、2つの強力な縦軸による高速道路のダブルネットワークを形成することで、東日本の産業経済の発展に大きく寄与することはもとより、災害時や冬期の円滑な交通の確保など防災道路として機能しています。

また、観光面では、常磐道の全線開通により関東地方からのアクセス性が向上したことで、沿線の山元町、亘理町の観光客数が震災前を大幅に上回るなど、交流人口の増加に大きく寄与しています。医療面においても、緊急搬送時間の短縮により、救命率が向上するなど、まさに「命の道」として機能しています。

さらに、本県では、仙台都市圏を囲む環状自動車専用道路「ぐるっ都・仙台」に、常磐道及び三陸沿岸道路が接続することで、既存の国道等の道路網と一体となって、港湾や空港とのネットワークが強化され、「富県宮城」を推進する地域産業の発展に大きく貢献しています。

今後は早期の全線4車線化などにより、更なる高速道路ネットワークの強化を図っていただき、常磐道が災害時や産業、物流、観光、医療などの多方面でますますの効果を発揮し、本県の「富県戦略」を強く後押ししていただけることを期待しています。

常磐自動車道が全線開通した平成27年当時、震災と原発事故という未曾有の複合災害の影響により、依然として10万人を超える方々が避難生活を続けている状況にありました。

そのような中、常磐自動車道の全線開通は、被災地の再生、復興に向けた道筋をより確かなものとする、正に「希望の道」として当県の復興を大きく後押しするものでした。

また、避難指示の解除が進む中、常磐自動車道は生活環境の整備や避難されている方々の帰還促進を始め、産業や観光交流による地域活性化など、様々な面で重要な役割を果たしています。

医療面においても、今後、復興が進み、帰還者や移住者の増加が見込まれることから、医療機関とつながる常磐自動車道は「命の道」として、更に重要性が高まるものと考えています。

現在、国家プロジェクトとして進められている福島イノベーション・コースト構想の取組においては、福島ロボットテストフィールドなどの拠点施設が浜通り地域に整備され、ロボットやエネルギー、医療、航空宇宙などの関連企業が数多く進出しています。令和5年には、創造的復興の中核拠点として福島国際研究教育機構(F-REI)が設立されるなど、常磐自動車道はこうした拠点施設等の取組を力強く支える、必要不可欠な社会基盤となっています。

近年頻発する自然災害の激甚化・頻発化により、災害時における代替路線の確保、災害に強い高速道路の重要性が一層高まっています。常磐自動車道においては、暫定二車線区間が残っていますが、高速道路が持つ安全性や定時性などを始めとした機能の確保・強化のため、常磐自動車道の早期全線4車線化を期待しています。



福島県知事

うちぼり まさお
内堀 雅雄氏